

日付	2019年8月8日(木)	天候	晴れ
主な日程	パプリカ農場 遊覧船 市場調査		
時間	研修内容	研修の写真	
8:45 視察・移動	次の研修地までバスで移動しながら、オランダの街の様子を視察しました。バスの中でガイドの古川さんからオランダの農地の現状や農業従事者の割合、輸出入の動向、そしてオランダの人々の生活など、様々な観点から説明をしていただきました。また、車窓から沢山の風力発電機や運河、花が飾ってある家の庭など、オランダらしい風景を見ながら、オランダの農業や暮らしについて考えることができました。		
9:50 パプリカ農場	<p>パプリカ農場「Bezoek Agriport」を訪問しました。ここでは10社が集まってトマトやパプリカを生産しており、トマトの栽培温室は120haあり、世界一の大きさでした。</p> <p>はじめに、温室を温めるためのボイラーを見学、オーストリア製の大きなボイラーで、一機1,200万円程するものが3機設置されていました。これらは、天然ガスで動いており、熱・二酸化炭素・電気を生み出していました。それぞれ温室の温度管理、植物の生育促進、機械の動力源に使っており、発電して余った電気は、売電しているそうです。</p> <p>続いて温室に行き、設備や栽培について説明を聞きました。天然ガスの価格が高騰していることや環境への配慮から、熱源に地下熱を利用する方法が取り入れられていました。この方法は、化石燃料を必要としないことからエコであるとされ、EUからの支援も受けたそうです。ここでは、清潔であること、水分量の管理がしやすいとの観点から、ロックウールを利用した栽培が行われていました。</p> <p>次に、会社経営について説明を受けました。この会社では1月まで生産しており、1日に平均で3万kgのパプリカを収穫、ピーク時には6万kgにもなるそうです。正社員は12人で、忙しい時期にはパートさんを雇い200人体制で生産を行っているそうです。</p> <p>最後に、温室の施設見学をしました。温室内には、左右に250mのパプリカが栽培されており、その迫力に圧倒されました。また、収穫物を自動で運ぶ運搬機とそのシステムに驚きました。</p>	 	
14:00 遊覧船での視察 市場調査	<p>オランダの運河を遊覧船で巡り、視察を行いました。解説の音声聞きながら、オランダの歴史や文化について、街や運河の様子を見ながら学ぶことができました。</p> <p>その後、アムステルダム市内で有機栽培の製品を扱っているマーケットと、通常のマーケットを視察し、市場調査を行いました。通常製品と有機栽培製品との価格やニーズの違いなどを学ぶことができました。</p>		
1日を終えて	<p>広大なパプリカ農園で、経営規模や自動で動く運搬機を見て、自分の知っている農業との差に驚きました。また、移動中や遊覧船からの風景などから、オランダの歴史や文化を感じることができ、農業のことからオランダのことについて知ることができた内容の濃い1日でした。明日は最後の研修になるので、今まで以上に積極的に取り組んでいきたいです。</p> <p style="text-align: right;">文責：大西 竣介</p>		